

令和7年度「杜の都のエコ・スクール活動」報告書

学校番号	32	学校名	仙台市立生出小学校	校長名	松岡 晃一郎
------	----	-----	-----------	-----	--------

1 取組のタイトル、テーマ

自然に親しみ、生命に感謝しよう



2 取組の紹介

(1) 学校農園の整備と活用、地域などとの連携

○学校農園では、各学年が栽培活動を行いました。わかば学級は夏野菜、冬野菜を植え、夏休み前と冬休み前に収穫祭をしました。2年生はさつまいもの苗を植え、秋に収穫しました。

4年生はヘチマの種をまき、理科学習に活用しました。

○2年生は、生活科で、地域と連携して干し柿づくりに取組みました。3年生は、総合的な学習の時間で、大豆を育て、地域と連携してみそづくりに取組みました

○5年生は、向山小との交流学习の一環として、田植えと稲刈りの体験をしました。



(2) 食育の推進

○給食の時間、学校放送を活用して毎日、「きょうのこんだて」という一口メモを作成し、各教室で見られるようにしました。材料の産地や栄養素、メニューの説明などを示し、担当児童が読んだり、担当がサポートしたりしながら、食への関心を高めるための取組をしました。

○残食（食品ロス）を減らすために、今年度も、献立を工夫することを心掛けました。学校行事と関連させた応援メニュー、国際理解教育と関連させた各国の料理、読書活動とも関連させた本に出てくる料理などを提供しました。また、生出地区では多種類の野菜が栽培されていることから、メニューに地場産品を活用したり、生出地区の郷土料理を提供したりして、食への関心を高めようとしてしました。



3 取組の成果（児童生徒の変容）

○本校の協働型学校評価重点目標「心身ともにたくましい児童の育成」の中に、食への取組を通してという部分があり、実際に世話をして育てたり調理して食べたりすることは、児童が自然に親しむきっかけになるとともに、自然を大切にしようという意識の高まりにつながりました。

○残食（食品ロス）を減らすために献立の工夫などをしたことで、児童は量を調節しながら、できるだけ決められた分量を食べようとする姿が見られるようになりました。